

製品名: Bak ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21300

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:23kD;Observed MW:23kD

抗原情報

遺伝子名	BAK1
別名	BAK1;BAK;BCL2L7;CDN1;Bcl-2 homologous antagonist/killer;Apoptosis regulator BAK;Bcl-2-like protein 7;Bcl2-L-7
遺伝子 ID	578
SwissProt ID	Q16611
免疫原	ヒト Bak の合成ペプチド

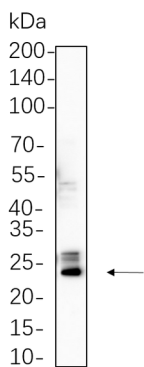
背景

細胞局在: ミトコンドリア外膜。この遺伝子によってコードされるタンパク質は BCL2 タンパク質ファミリーに属する。BCL2 ファミリーのメンバーはオリゴマーまたはヘテロダイマーを形成し、アポトーシス抑制因子またはアポトーシス促進因子として作用し、様々な細胞活動に関与する。このタンパク質はミトコンドリアに局在し、アポトーシスを誘導する。ミトコンドリアの電位依存性アニオンチャンネルと相互作用し、その開口を促進することで膜電位の低下とシトクロム c の放出を引き起こす。また、細胞ストレス曝露後には腫瘍抑制因子 P53 とも相互作用する。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



K562 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、メンブレンを Bak ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。